

代表戦スポーツイベント観戦動機に関する研究

2012. 1

慶應義塾大学 商学部

濱岡豊研究会

松田祐太

【概要】

本論文は人々が各スポーツの代表戦においてどのような動機を持って観戦を行っているのかを様々な視点から研究を行ったものである。観戦意向に与える要因として「観戦能力」、「プレーへの興味」、「選手へのロイヤリティ」、「期待の一致」、「社会的交流意欲」、「ミーハー意欲」、「感動の共有欲求」、「家族との交流欲求」、「満足度欲求」に注目して仮説を設定した。アンケート調査を行い、実証した結果「期待の一致」のみが全体では採択され、他の仮説は棄却された結果となった。観戦能力の上位、下位に関しては結論として、観戦能力の低い人の方がより「プレーへの興味」を持ち、観戦能力の高い人の方がより「期待への一致」、いわゆる代表選手が出ず結果に対してシビアな見解を持っていることが分かった。

【キーワード】

観戦意向、観戦能力、プレーへの興味、選手へのロイヤリティ、期待の一致、社会的交流意欲、ミーハー意欲、感動の共有欲求、家族との交流欲求、満足度欲求

Why People Support Japanese National Football Team?

January 2012

Faculty of Business and Commerce, Keio University
40818257

Yuta Matsuda

【Abstract】

This article is about the study of the intension of people for the international competitions of sports. I made the hypothesizes focusing on analyzing, interest for skill, loyalty, results, intension to communicate, know current topics, share the impression, time with family and have fun as factors which have an effect on Intension to watch games. After that, I had people answer the questionnaire. In the result, one of the hypotheses, which is the intension for results, was adopted and the others were all rejected in the whole. As a result I found that the people who don't have much ability of that had 'interest in the skill', on the other hand people who have that ability care the performance of the team.

【keyword】

Intension to watch games, analyzing, interest for skill, loyalty, results, intension to communicate, know current topics, share the impression, time with family and have fun

目次

1. はじめに	5
2. 事例研究	6
2.1 事例研究の目的	6
2.2 ワールドカップ	8
2.3 オリンピック	8
2.4 WBC	9
2.5 実態調査	13
2.6 事例研究のまとめ	14
3. 先行研究	
3.1 先行研究のレビュー目的	15
3.2 「みるスポーツ」による観戦者の分類視座	15
3.3 プロスポーツ観戦者の将来ファン行動に関する研究	15
3.4 スポーツ観戦における感情場面	15
3.5 異なるスポーツファンにおける個人別の動機	16
3.6 娯楽的観点におけるスポーツ観戦者の観戦動機	16
3.7 先行研究のまとめ	17
4. 仮説設定	
4.1 仮説設定について	18
4.2 観戦意向に関する仮説	18
4.3 プリテスト	19
5. 単純集計	
5.1 調査票の作成	21
5.2 観戦意向に関する設問	21
5.3 実態調査	22
5.4 調査対象	22
5.5 単純集計結果	22
6. 仮説検定	
6.1 観戦意向に関する仮説の検定結果	24
6.2 仮説検定結果まとめ	32
7. 考察	
7.1 観戦意向に関する仮説の考察	33
7.2 考察のまとめ	36
8. 最後に	

8.1 実務への応用	37
8.2 今後の展望	37
8.3 最後に	37
参考文献	
附属資料	

1. はじめに

2010年にワールドカップが行われ、多くの人々が歓喜の輪の中にいたが、その中にはサッカーの経験者、未経験者を問わず人々が存在していたと思われる。他のスポーツにおいても、自分が全く経験したことのないスポーツの観戦を通して心を満たす人が多いのではないか。彼らが観戦に至る動機は様々であるがただ単純に楽しみたいという人もいれば、スポーツを純粋に分析したいという人もいると考えられる。

今回の研究では人々がスポーツ観戦に至る動機について先行研究を踏まえ作成したアンケート調査によって把握することを目的としている。また、人々を観戦能力の高低で区分し、それぞれのスポーツ観戦の動機における違いを明確にしたい。

2. 事例研究

2.1 事例研究の目的

現在、多くの代表戦スポーツイベントが存在するが、ここではそれらが実際に人々からどのくらい関心を受けているのか、またスポーツイベントの内容、形式を調査をいくつかの既存の事例を基に調べてみることにした。そしてそれらの事例研究の結果から考察を述べたい。

2.2 サッカーワールドカップ

1) 概要

国際サッカー連盟 FIFA が主催する、各国のナショナルチームによるサッカーの世界選手権大会である。サッカーの大会の中では世界最高峰のものとされている。本大会で参加出来るチームは 32 カ国であり、各エリアでの厳しい予選を勝ち抜いた国々が本戦で頂点を争う。また開催は 4 年に 1 度である。これまでの最多優勝国はブラジルの 5 回である。本戦に参加するチームは参加準備金として各々約 9000 万円が支給される。日本は以前開催国として 2002 年度、サッカーワールドカップを隣国の韓国と共催した。女子部門も存在し、2011 年日本代表はワールドカップ優勝を成し遂げた。男子部門の次期開催国はブラジルである。

2) 観戦形式及び外部データ

ドイツで開催されたワールドカップ (2006 年度) の観戦における調査を行った日経 BP によると「日本代表戦を自宅、知人宅でライブ中継を見る」が 58. 8%、「自宅で中継を録画し、後ほど観る」が 26. 0%、「観戦しない」が 11. 5%、「日本のスタジアムやスポーツバーで観る」が 2. 2%、「現地で観戦する」が 1. 4%となっていた。上記の結果から日本の人々から高い関心が示され、多くの人間が何らかの形でサッカーの日本代表戦を観戦していることが分かる。また同サイトでは深夜帯での視聴においても「視聴したいと思う」が 70. 25%、「したくない」が 29. 75%と人々から高い関心があることを裏付けるデータを供給している。

また別の観点から同サイトではワールドカップ後に同イベントを楽しめた理由について人々に調査を行った結果、「周囲と何となく盛り上がったから」、「応援グッズなどで応援して楽しめたから」などある種サッカーそのものとは別の要因が人々のサッカー観戦へと繋げる動機となっていることが伺える結果が見られた。

図表1 FIFA公式ホームページ



(出所: <http://www.fifa.com/worldcup/index.html>)

図表2 日経BPホームページ



(出所: <http://www.nikkeibp.co.jp/>)

2.3 オリンピック

1) 概要

オリンピックとは近代オリンピックとも称され、4年に1度国際オリンピック委員会 (IOC) が開催する、世界的なスポーツ大会である。夏期と冬期にわかれており、種目もその季節ごとのもので争われることとなっている。1896年にアテネで開催されたことがオリンピックの始まりであった。次回の夏期開催はロンドン、冬期開催はソチとなっている。夏期の正式競技はサッカーなどの球技を初め、総合で26競技であり、種目にすると300ほど存在する。冬期の競技は大きく分類して7つ程存在する。夏期・冬期どちらも100カ国以上の国々が参加し、頂点を争う。日本は夏期では1964年、冬期では1972年、1998年にそれぞれ開催国として運営を行った。

2) 観戦形式及び外部データ

2010年、バンクーバーで開催された冬季オリンピック前に日経BPによって行われた調査によると観戦の形式として「テレビで生観戦（リアルタイム視聴）を行う」が40.9%、「スポーツニュースのみをチェックする」が33.1%、「観戦しないと思う」が16.7%、「録画して観戦する」が9.2%、「バンクーバーまで行き、生で観戦する」が0.1%という結果であった。またバンクーバー五輪の直前に同サイトが行った関心の有無を人々に問う調査によると関心がないと答えた人間は約30%であり、約70%の人々は関心があり、何らかの形で観戦を行うと答えた。冬期オリンピックの競技は夏期に比べ、フィギアなど国内では一般のプレーヤーが少ない競技が多く開催されているが、その中でも上記のような高い関心が観られる数値が出ている以上、競技そのものを観たいという要因以外の何かが観戦に至る動機としてあるのではないかと推測される。

同サイトによる別のアンケート調査によれば、バンクーバー五輪ではテレビ中継での観戦がメインであり、スポーツバーやスポーツカフェでの観戦を行う形態はあまり取られていないことが認識できた。前述したサッカーワールドカップでは「周囲と盛り上がりたい」など、外部の人と楽しむことが観戦の目的として認識されたが、バンクーバー五輪では自宅などで家族や個人的に落ち着いて観ることの方がより人々に好まれる形式なのではないかと推測される。またワールドカップよりも大衆的なスポーツが少ない分、関心は持ちつつも、リアルタイムでは観戦せず、ニュースやインターネットで結果を見るだけですかという人も多いのではないかと推測された。

図表3 JOC—日本オリンピック委員会



(出所 : <http://www.joc.or.jp/>)

2.4 WBC (ワールドベースボールクラシックス)

1) 概要

WBC、正式名称 World Baseball Classics は国際野球連盟 (IBAF) によって認可されたナショナルチームの野球の世界一決定戦である。世界の国々が予選を戦い、本戦に勝ち抜いた16カ国によってトーナメント戦を行い、王者を決める形式を取っている。前回大会及び前々回大会で日本代表は2連覇を成し遂げた。メジャーリーグのスケジュールとの関連もあり、今後の開催があるかは未定となっている。開催国は過去2回の大会では共にアメリカが担っていた。

2) 観戦形式及び外部データ

株式会社インテージは2009年3月6000名を対象にWBCに関する調査を行った。約6割もの人々がWBCに興味がある旨の回答を行っていた。男女別の回答を観ると総じて男性の方が関心を示し、年代別で観ると10代から60代にかけて関心の割合が上がっていることが分かる。本論文では関係のない話ではあるが、この結果から若い世代にはサッカーなど野球以外のスポーツがプレーされており、以前のような日本のスポーツにおける野球の絶対的な人気というものはないことが考えられる。しかし総じてこの結果からはまだ野球に対しての高い関心が観られ、テレビにおける最高視聴率でも37.6%を達成した。この数字

も野球をしていた及び現在もしている人のみからでは得られる数字ではなく、ワールドカップなどと同様に盛り上がりたい、ストレスを解消したいなど様々な要因が観戦へと人々を導いていると推測される。

図表4 WBC(World Baseball Classics)



(出所 : <http://web.worldbaseballclassic.com/index.jsp>)

図表5 株式会社インテージ

市場調査・ネット調査・ネットリサーチ・マーケティングリサーチのバイオニア

intage 株式会社インテージ

ENGLISH 検索

サービス Service | 会社概要 Company Information | IR情報 IR Information | 採用情報 Employment Information | お問い合わせ Contact

このたびの東北地方太平洋沖地震により被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。被災地の皆様の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

INTAGE FORUM 2011

生活者を起点とした新たな「知」の創造 ～時代の転換期における価値観の変化を捉える～

終了いたしました。開催当日は、多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。

東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)復興サポート

- 2011.10.12 『東日本大震災後の生活者の意識と行動調査・第5弾』
- 2011.10.05 『東日本大震災後の生活者の意識と行動調査・第4弾』

2011.10.03 MROC調査を用いたサービスの本格提供を開始

インテージのサービスご紹介

テーマから探す

- 新商品開発
- マーケティングリサーチ
- ブランド強化・延命

ニュース News

- 2011.10.12 【ニュース】『東日本大震災後の生活者の意識と行動調査・第5弾』
- 2011.10.05 【ニュース】『東日本大震災後の生活者の意識と行動調査・第4弾』

インテージグループ サイトはこちら

アジアへ、世界へ、そしておしよへ インテージのグローバルリサーチ

インターネットリサーチ インテージが選ばれる理由とは？

メディア掲載情報

アンケートモニター募集中

(出所：<http://www.intage.co.jp/>)

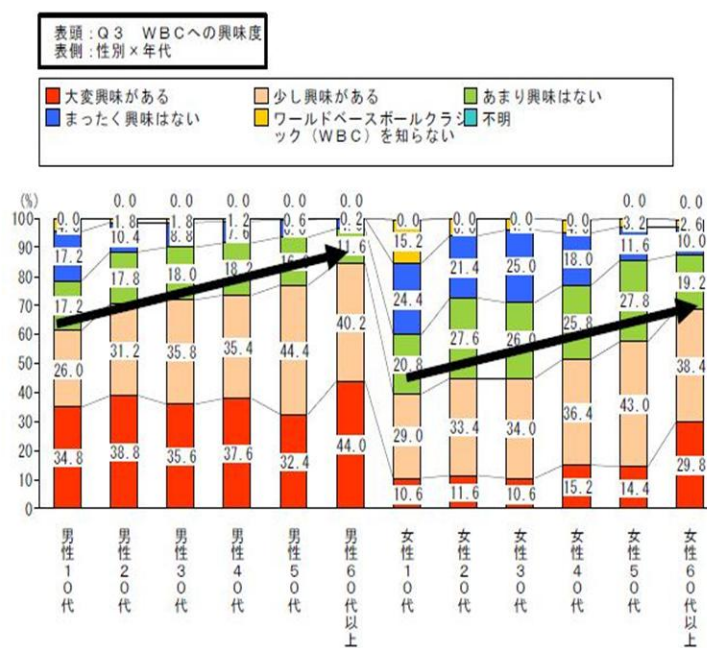
図表 6 株式会社インテージが行ったアンケート内容

Q あなたの、2009年のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)に対する興味について、お気持ちに一番近いものをお答えください。(単一回答)

[図 1] ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)への興味度

やはり野球は男性の関心事

「関心がある」と回答したのは、やはり女性に比べて男性のほうが多く、男女とも、年代が上がるほど、関心を寄せている人が増える傾向にある。



(出所：https://www.cue-monitor.jp/pdf/WBC_questionnaire.pdf)

2.5 実態調査

事例研究や先行研究を踏まえた上で、スポーツ観戦する上で何かしらの他の要素が影響してはいないかを調査するために、本論文の著者の身边的人々15名程度にEメールを送信し、実態調査を行った。質問項目は以下の通りである。

- 1、自らがやったことがない、もしくはルールや戦術などを詳しく理解していないスポーツの名前をお答え下さい。(複数回答可)
- 2、質問1でお答えしていただいたスポーツの日本代表戦をTV、スポーツバー、スタジアム等で観戦したことがあると思いますが、観戦を行った理由は何ですか？
- 3、その後、それらのスポーツを再び行いましたか？もし再び観戦を行った場合、その決め手は何ですか？

回答例は以下の通りとなった。

(1)

- ・サッカー
- ・ラクロス
- ・フェンシング
- ・アメフト
- ・ラグビー
- ・野球
- ・クリケット
- ・水泳
- ・バレーボール
- ・カーリング
- ・バスケットボール
- ・テニス

(2)

- ・たまたまテレビをつけたらやっていて、好奇心で観戦した。(サッカー)
- ・ルールなどは解らないが、周りの人が好きで一緒に見ていた。(サッカー)
- ・海外でしかほとんど見る事の出来ないスポーツで、珍しさのあまり観戦した。(クリケット)
- ・話題性のあるスポーツだったから
- ・家族が観戦を行っていたから、一緒に見ていた。
- ・スポーツはみているだけで周りの人とアツくなれる。
- ・友人の付添い
- ・詳しく解らなくても代表は応援したい。

- ・特定の選手が好き
- ・注目を浴びているために一応見ている。

(3)

- ・スポーツの観戦を通して出来た友人関係や異文化交流などが出来るから
- ・見ていたスポーツがメディア等で話題になり、戦術や選手について説明されたときに理解でき、自然と興味がわいた。
- ・スポーツについて理解が深まると自然にプレーの内容についても解るようになり、上手い下手の区別が付き、選手各人への興味も増す。
- ・純粋にスポーツイベントを楽しめたから
- ・好きな選手が出来たから
- ・そのスポーツが好きになったから
- ・スポーツバーで W 杯を観戦した際にみんなで盛り上がられて楽しかった。ルールとかは解らなくても代表戦とかは大きな規模のイベントで盛り上がるから。長友が好きだから。

- (1) の結果からは観戦能力の低いスポーツの種類をある程度割り出そうと考えたが、その対象は各々異なる事が解った。
- (2) の結果からは「話題性があったため」、「注目されていたため」という趣旨の回答が多く観られた。また友人や家族と一緒に観たなど、人との交流を図る上での媒体という役割を持っていることも推測された。
- (3) の結果からは「人との交流が出来たから」、「スポーツを理解できたから」、「個人的に好きな選手が出来たから」、「純粋に楽しめたから」等の先行研究からも推測されるような動機が述べられていた。

2.6 事例研究のまとめ

ここまでサッカーワールドカップ、オリンピック、WBC について事例研究を行ったが、総じて人々から高い関心を持たれ、テレビ観戦やインターネット観戦、スポーツバーでの観戦のなど多岐に渡る観戦方法によって実際に観られていることが分かる。また 1 人で見ると人もいれば、複数人で盛り上がりながら観る人もいる。アンケート調査だけではなく、視聴率の記録などを見れば、そのスポーツに興味があるなしだけではなく、あらゆる要因が人々を観戦に至らせているのではないかということが推測される。もちろん注目を浴びている大きなイベントなだけに皆が観ているからと言ったような単純な要因も恐らくあり得る。これらの要因を自ら考えつつ、この後の先行研究を踏まえ、仮説を作成し、調査をしていきたいと考えている。

3. 先行研究

3.1 先行研究レビューの目的

事例研究の中で人々がプレーを観ることのみがそのスポーツの観戦の目的なのではなく、何らかの他の要因が人々を観戦に至らすのではないかとすることを考察した。また観戦において、そのスポーツに今まで関与していたかの有無によって人々の観戦動機が異なるのではないかと考えられる。

それらを踏まえ、この先行研究ではどのような事がそれらの要因としてあげられるのかを考えたい。

3.2 「みるスポーツ」における観戦者の分類視座

丸尾（1996）によると、スポーツにおける観戦動機は多様化しており、そのスポーツごとに人々が求めるニーズがあり、それに応えられるマーケティングを行わなければならないとしている。その中でまず観戦者の分類を行わなければならない、観戦者がそのスポーツに対してもつ能力によって丸尾は分類している。分類用の項目としては「戦術や戦略の理解」、「ルール全般の理解」、「監督の采配の理解」について五段階評価で質問を行い、相対的な比較によって人々のスポーツに対する観戦能力の高低を分類した。

3.3 プロスポーツ観戦者の将来ファン行動に関する研究

松井、原田（2011）は野球とサッカーのプロリーグにおける研究の中でいかなる要素が人々の「将来ファン行動」、すなわち再び観戦、関与へと繋がるのかを調査した。その中で、「期待の一致」、「自尊心反応」、「満足度」が重要な要素として認識された。スポーツごとの分類に際してはプロ野球に関しては「自尊心反応」「期待の一致」、プロサッカーではそれに加え、「満足度」が将来ファン行動に影響を及ぼすことが解った。

「自尊心反応」：そのチームと今後も繋がっていたいか

「期待の一致」：プレーやパフォーマンス（結果）に対して満足したか

「満足度」：純粋にそのスポーツの観戦を楽しめたか

3.4 スポーツ観戦における感情場面

原田（2009）は国内のプロサッカーリーグである、Jリーグの観戦者を対象に研究を行い、どのような要素が再びサッカー観戦を行う上で重要になってくるのかについて調査をした。

その中で「卓越したプレー」、「感情的満足度」が人々の再観戦行動に影響を与えると述べた。卓越したプレーや懸命な姿を見せる選手へのロイヤリティがその選手への更なる関与を行いたいという動機に繋がると考えられる。

「感情的満足度」：選手の必死さや躍動感溢れるプレーへの感情的満足

3.5 異なるスポーツファンにおける個人別の動機

Wann(2008)らは論文の中でスポーツに求める動機は人によってそれぞれ違い、経済的、逃避、ストレス発散、エンターテインメント、グループの結束、家族などの動機があると述べている。その中でも家族や友人と過ごすことを目的にスポーツイベントへ参加する人は野球やサッカーといった家族間や友人と共に楽しみ、より交流しながら観戦できるようなスポーツへ参加する。スポーツ観戦を行う人は何かしらの交流意欲を持ってスポーツイベントに参加する人が多いのではないかと考えられる。

3.6 娯楽的観点におけるスポーツ観戦者の観戦動機

Funk(2005)らはスポーツイベントにおいての人々が持つ観戦に至る動機を娯楽の観点からオーストラリアのラグビー観戦者を基に研究した。以下の5項目が人々のスポーツ観戦に強い影響を及ぼしていると考えられる。

- ① 他者との交流を図る
- ② 応援するチームの結果への満足
- ③ 試合の中で興奮を味わえるか
- ④ 勝利の中で達成感を味わえるか
- ⑤ 気晴らしが出来るか

スポーツ観戦中の他者との交流の中で、共に興奮し、感動を味わえる要素も重要となってくる。

3.7 先行研究のまとめ

先行研究	要点
「みるスポーツ」における観戦者の分類視座（丸尾（1996））	スポーツイベントへの参加者を個々の観戦能力によって分類した。観戦能力の高低によって観戦能力は異なると推測している。
プロスポーツ観戦者の将来ファン行動に関する研究（松井、原田（2011））	「自尊心反応」、「期待の一致」、「満足度」が人々の将来ファン行動を促すものであると考えられる。
スポーツ観戦における感情場面（原田（2009））	選手が見せる「卓越したプレー」や「必死な姿」に観戦者は感情的満足を覚えることで今後の再観戦に繋がると捉えている。
異なるスポーツファンにおける個人別の動機（Wann , Daniel L, Fredrick G. Grieve(2008)）	人々はスポーツイベントに行くのに際し、何らかの交流意欲を持っている可能性が高いと考えられる。
娯楽的観点におけるスポーツ観戦者の観戦動機（Funk, Filo, Kevin, Anthony A(2005)）	スポーツを観ている、誰かしらと交流し、共に感動や興奮を味わえることが再観戦へと繋がる重要な要素であると考えられる。

4. 仮説設定

4.1 仮説設定について

本論文では総計8個の仮説を設定している。8個共に観戦意向との相関を問う仮説であるが、その内の3個が観戦能力の高低によって人々を比較視する仮説である。この論文において「スポーツイベント」とは何らかのスポーツにおける日本代表戦と定義する。

また仮説の中では「ミーハー意欲」という言葉のように自ら名付けたものもあるので、各々の定義に関しても紹介していきたい。

4.2 観戦意向に関する仮説

まず観戦意向の定義について説明をしたい。

観戦意向：あるスポーツをスタジアムやテレビ等の媒体を問わず、観たいという意思

先行研究の結果、次の7つの項目が人々の観戦動機に密に関わる要素なのではないかと推測し、仮説として引用した。(1)プレーへの興味、(2)選手へのロイヤリティ、(3)期待の一致、(4)社会的交流意欲、(5)ミーハー意欲、(6)感動の共有意欲、(7)家族との交流意欲、(8)満足度欲求がそれらである。

その中で、(1)、(3)、(5)に関しては観戦能力の高低で相関に差が出ると考えられるため、観戦能力で比較する上での仮説設定を行った。項目の(2)、(4)、(6)、(7)、(8)に関してはサッカーの知識とは関連性のない因子だと想定したため、観戦能力の区分によって仮説を設定しなかった。反対に観戦能力の高低によって(1)、(3)、(5)の因子において結果に差が出ると考えられた理由として、(1)に関しては実態調査から観戦能力の低い人間はプレーへの興味を持って観戦を行うよりも純粹に楽しむことや、純粹に人と交流して盛りあがる事を目的にしている人が多かったこと、(3)に関しては私的な意見であるが、そのスポーツの観戦能力が高い人は結果の有無に関わらず、興味を抱いて観戦を行うという想定をしたため、観戦能力の低い人間の方がより相関が強いのではないかと想定した。(5)に関しては観戦能力の低い人間のみが持つ因子と想定しており、観戦能力の高い人間は流行や話題性によって観戦を行う可能性は低いと考えたためである。

各々の項目についての定義は以下の通りである。

プレーへの興味：そのスポーツにおけるプレーの上手い下手の判別を知りたいという意欲
選手へのロイヤリティ：特定の選手に対する愛着や興味（原田(2009)）
期待の一致：自らの期待とチームや選手の出す実績との一致（松井、原田（2011））
社会的交流意欲：イベントを通して様々な人との交流をしたいという意欲（Funk(2009)ら）
ミーハー意欲：流行や話題について行きたいという意欲

感動の共有欲求：人々と感動を共有したいという意欲 (Funk(2009)ら)
家族との交流欲求：家族との交流をしたいという意欲 (Wann(2008)ら)
満足度欲求：純粋にスポーツイベントを楽しみたいという意欲 (松井、原田(2011))

本調査では上記の要因と観戦意向との相関を調べる。他にも考えられる要素があるが今回はこの8個の要素を基に調査を行う。

「プレーへの興味」、「ミーハー意欲」に関しては前述の通り、実態調査を踏まえ、重要な動機として捉えることが出来るのではないかという推測の基、自身の考えで取り入れることとした。

以下、本論文における仮説である。

- H1-1：プレーへの興味と観戦意向には正の相関が存在する
- H1-2：観戦能力の高い人の方が低い人より、プレーへの興味と観戦意向との相関が強い
- H2：選手へのロイヤリティと観戦意向には正の相関が存在する
- H3-1：代表戦での期待の一致と観戦意向には正の相関が存在する
- H3-2：観戦能力の低い人の方が高い人より、代表戦での期待の一致と観戦意向との相関が強い
- H4：社会的交流意欲と観戦意向には正の相関が存在する
- H5-1：ミーハー意欲と観戦意向には正の相関が存在する
- H5-2：観戦能力の低い人の方が高い人より、ミーハー意欲と観戦意向との相関が強い
- H6：感動の共有欲求と観戦意向には正の相関が存在する
- H7：家族との交流意欲と観戦意向には正の相関が存在する
- H8：代表戦での満足度欲求と観戦意向には正の相関が存在する

4.3 プリテスト

本研究は代表戦スポーツイベントにおける観戦者の動機について詳しく調査することを目的としているが、あらゆるスポーツについて調査票において質問項目を作ると膨大な回答数になってしまうため、アンケートの回答数を減らすためにプリテストを行った。

プリテストでは野球、サッカー、テニス、バスケットボール、卓球の5つのスポーツを対象とし、6つの質問を回答者にそれぞれ行った。以下が質問項目の詳細である。尚、回答者には質問1及び質問4は「した」か「していないか」の2段階、他の項目は五段階の評価で回答を行わせることとした。

(*1はい 2いいえ)

(*5そう思う 4ややそう思う 3どちらでもない 2あまりそう思わない 1そう思わない)

- 質問 1 : 実際にプレーしたことがあるか
- 質問 2 : おおよそのルールは理解している
- 質問 3 : おおよその戦術を理解している
- 質問 4 : 好きな選手はいるか
- 質問 5 : プレーへの興味がある
- 質問 6 : 日本代表戦を観戦する

実際に調査を行ったサンプル数は 30 であり、平均と分散を考慮に入れた結果、一番均衡の取れていたものがサッカーであったため、サッカーを選択し、実際の仮説を検証する上での調査票に取り入れるスポーツとした。

*平均と分散の項目については参考資料の項目に記載している。

5、単純集計

この章では前章で作成した仮説を検証するために調査票の作成、単純集計を行う。

5.1 調査票の作成

H1~8の仮説において全てリッカート尺度を用い、5段階で評価を行う形式の質問を作成した。また調査票の最後の2項目は人との交流がネット上でどのくらい行われるのかの実態を調査する上での項目を作成した。

5.2 観戦意向に関する設問

仮説 H1~H8 について各因子を測定するため、リッカート尺度を用いた設問を、各因子につき3問、合計24問用意し、それぞれどの程度あてはまるか5段階で答えてもらった。各因子と設定した設問を対応させたものを以下に示した。

年齢・・・平均：21.7、分散：23.2

性別・・・男性81%、女性19%

図表7 仮説概念と質問項目の対応表

設問	因子名
9、選手のプレーの善し悪しを知りたい	プレーへの興味
10、選手のプレーを見る事が観戦の上でも重要な	
11、選手のプレーに詳しくなりたい	
12、好きな選手を見るために生で観戦したい	選手へのロイヤリティ
13、個人的に注目している選手がいる	
14、特定の選手の動向は常に意識している	
15、観戦する試合では良い成績を残して欲しい	期待の一致
16、結果が伴わなければ観戦したくない	
17、選手の出す成果を常に期待している	
18、休日に1人でいたくはないと思う	社会的交流意欲
19、仲間と頻繁に連絡を取り合いたいと考えている	
20、特定の人ではなく、より多くの人と交流したい	

2 1、新商品という言葉に弱い	ミーハー意欲
2 2、流行には敏感だと思う	
2 3、話題性のあるものは必ず知っておきたい	
2 4、人の喜ぶ姿が好きだ	感動の共有欲求
2 5、嬉しい出来事は人に話したい	
2 6、感動の場面は大勢で分かち合いたい	
2 7、家族との時間を大切にしたい	家族との交流欲求
2 8、なるべく家族と連絡を密にするよう心がけている	
2 9、家族での外出、旅行が好きだ	
3 0、わいわい騒いで楽しむことが好きだ	満足度欲求
3 1、楽しく盛り上がりたい	
3 2、何事も楽しみながら行いたい	

5.3 実態調査

回答者が人々と社会的交流を行う上でどのくらいインターネットに関与しているのかを把握する上での実態調査の項目を2つ用意した。

5.4 調査対象

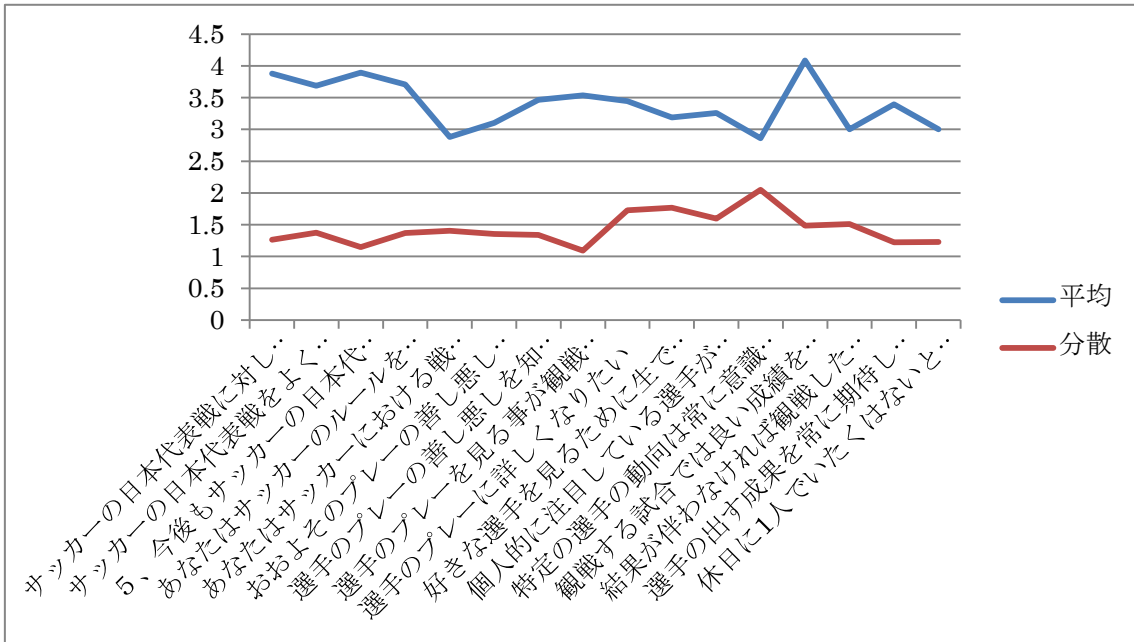
以上の調査票を用いて、2011年11月に学生を中心に調査を行った。有効回答数は58、回収率は100%だった。

5.5 単純集計結果

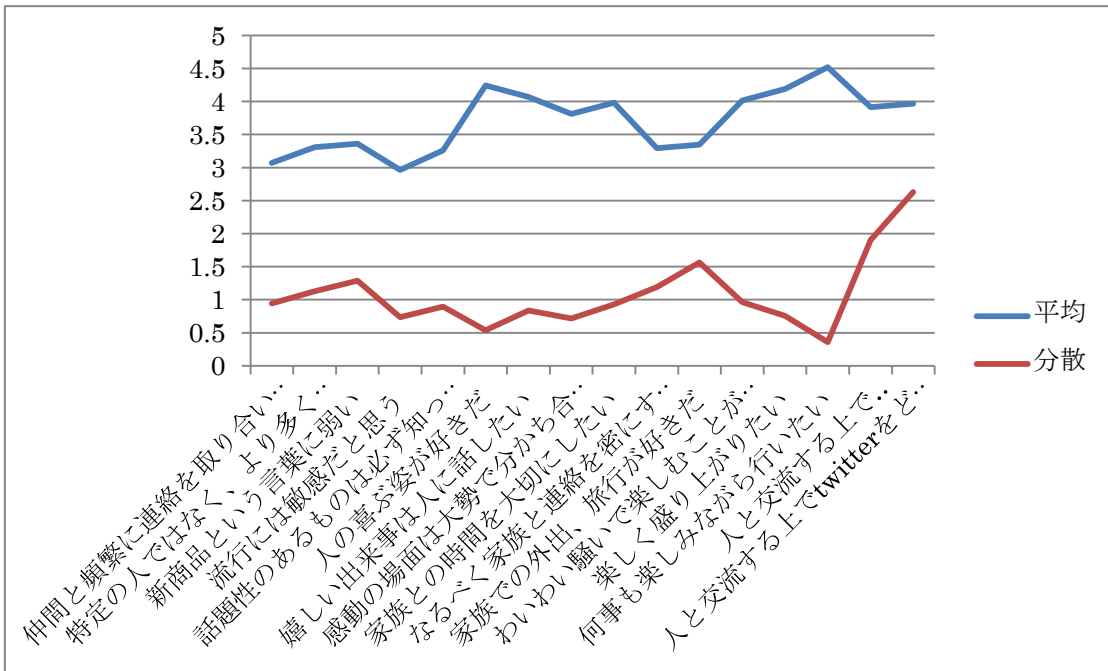
分析に入る前に、単純集計として調査項目の平均、分散、標準偏差を、Excelを用いて算出した。ここでは平均値および分散値のみを示し、他の項目は付属資料として最後に記載する。

質問項目3～5が観戦意向に関する質問であるが、数値として平均がかなり高く、分散が低くなっている。このことから他の因子との相関が見られにくい状況になっていることが想定される。また質問項目全体を通じて平均が高く、分散が低い数値が見られる。

図表 8 Q3~Q18 の単純集計結果



図表 9 Q19~Q34 の単純集計結果



6. 仮説検定

この章では、調査票によって得られたデータを用いて、分析を行う。調査は観戦意向に関する項目全てである。

尚、分析に用いた統計ソフトはRである。

6.1 観戦意向に関する仮説の検定結果

仮説 H3~H6 に関しては、調査票設問の 19 の項目について、作成時に想定した説明変数と被説明変数に分けて因子分析を行い、因子をまとめた後、各因子のクロンバック α 係数を求め、設問が一定のまとまりを持っているかを確認した。高くなった項目を用いて因子得点を算出し、重回帰分析を行った。

なお、「プレーへの興味」「選手へのロイヤリティ」「期待の一致」「社会的交流意欲」「ミーハー意欲」「感動の共有欲求」「家族との交流意欲」「満足度欲求」を独立変数、「観戦意向」を従属変数として重回帰分析を行った。

1) 因子分析①

因子分析を行った結果、まず「家族との交流意欲」、「満足度欲求」、「社会的交流意欲」、「感動の共有欲求」の因子が抽出された。結果は以下の通りである。尚、因子として適さない質問項目は削除した。それらは質問 10、20、24 である。

図表 10 因子負荷量(1)

	設問	因子							
		1	家族との交流意欲	満足度欲求	社会的交流意欲	感動の共有欲求	6	7	8
9	選手のプレーの善し悪しを知りたい	0.808	-0.189						
10	選手のプレーを見る事が観戦の上で最も重要だ	0.43	0.235	-0.266	-0.214	0.136	-0.127		
11	選手のプレーに詳しくなりたい	0.763			-0.197		0.177		0.126
12	好きな選手を見るために生で観戦したい	0.704	0.218				0.112	-0.12	0.174
13	個人的に注目している選手がいる	0.715			0.216	0.12	0.111	0.122	-0.122
14	特定の選手の動向は常に意識している	0.735			0.22	0.192	-0.316	0.179	-0.221
15	観戦する試合では良い成績を残して欲しい	0.405	0.122	0.237		0.277	-0.118	-0.117	0.291
16	結果が伴わなければ観戦したくない	0.342	0.241	-0.125	-0.105	0.117	-0.157		-0.141
17	選手の出す成果を常に期待している	0.604	0.263	-0.117	-0.172	0.315	0.173	0.285	
18	休日に1人でいたくはないと思う	-0.186	0.115	0.116	0.92		0.163		
19	仲間と頻りに連絡を取り合いたいと考えている		-0.14		0.733	0.168	-0.183	0.102	0.128
20	特定の人ではなく、より多くの人と交流したい	0.114	0.306	0.318	0.26		0.132		
21	新商品という言葉に弱い	0.156	0.139				0.881	0.186	
22	流行には敏感だと思う						0.356	0.271	
23	話題性のあるものは必ず知っておきたい			0.155	0.472		0.19	0.954	
24	人の喜ぶ姿が好きだ		0.187	0.419	0.113	0.463	-0.249		0.17
25	嬉しい出来事は人に話したい	0.135	0.173	0.162		0.934	0.189		-0.104
26	感動の場面は大勢で分かち合いたい	0.18	0.25	0.189		0.543	-0.141		0.255
27	家族との時間を大切にしたい		0.753	0.297	0.264	0.249			0.523
28	なるべく家族と連絡を密にするよう心がけている		0.865					0.104	
29	家族での外出、旅行が好きだ	0.102	0.919	0.156		0.199	0.163		-0.221
30	わいわい騒いで楽しむことが好きだ		0.265	0.828		0.252			-0.135
31	楽しく盛り上がりたい			0.961	0.217	0.116	0.118		
32	何事も楽しみながら行いたい			0.659					

次に「観戦意向」、「観戦能力」についても因子分析を行い、因子を抽出することに成功した。以下がその結果である。

図表 11 因子負荷量(2)

	設問	因子	
		観戦意向	観戦能力
3	サッカーの日本代表戦に対して関心がある	0.893	0.336
4	サッカーの日本代表戦をよく観戦する	0.771	0.394
5	今後もサッカーの日本代表戦を観戦したいと思う	0.949	0.308
6	あなたはサッカーのルールをどの程度理解していますか	0.35	0.749
7	あなたはサッカーにおける戦術をどの程度理解していますか	0.25	0.899
8	おおよそのプレーの善し悪しが分かりますか？	0.347	0.834
	因子寄与率	0.433	0.404

2) 因子分析②

全体で因子分析を行った際、「プレーへの興味」、「選手へのロイヤリティ」、「ミーハー意欲」の因子が抽出されなかったため、質問を細かく分けて因子分析を行った。その結果、「上記の3個の因子は全て抽出された。

図表 12 因子負荷量(3)

	設問	因子	
		プレーへの興味	ロイヤリティ
9	選手のプレーの善し悪しを知りたい	0.823	0.282
10	選手のプレーを見る事が観戦の上で最も重要だ	0.354	0.139
11	選手のプレーに詳しくなりたい	0.762	0.319
12	好きな選手を見るために生で観戦したい	0.43	0.536
13	個人的に注目している選手がいる	0.22	0.973
14	特定の選手の動向は常に意識している	0.419	0.573
	因子寄与率	0.299	0.294

図表 13 因子負荷量(4)

	設問	因子	
		ミーハー意欲	2
15	観戦する試合では良い成績を残して欲しい	-0.11	0.489
16	結果が伴わなければ観戦したくない		0.22
17	選手の出す成果を常に期待している	0.357	0.931
21	新商品という言葉に弱い	0.648	
22	流行には敏感だと思う	0.645	-0.212
23	話題性のあるものは必ず知っておきたい	0.617	0.123
	因子寄与率	0.226	

3) クロンバック α 係数測定

修正した因子分析によって収束した各因子と、それに対応する質問項目についてさらに収束妥当性を確認するために、クロンバック α 係数を測定した。なお 0.5 以上をまとまりがよいと判断することとしたが、すべての因子について 0.5 以上になったため各質問項目が対応する因子に収束したと判断した。クロンバック α 係数測定結果が以下の図表である。

尚、期待の一致に関して質問項目としてまとまらなかったため、質問 15 を採用することとした。質問 15 を採択した理由としては最も簡潔に意図した質問内容を言語的に捉えていたためである。

図表 14 各因子におけるクロンバック α 係数

番号	質問内容	α 係数
3	サッカーの日本代表戦に対して関心がある	0.951
4	サッカーの日本代表戦をよく観戦する	
5	今後もサッカーの日本代表戦を観戦したいと思う	
6	あなたはサッカーのルールをどの程度理解していますか	0.915
7	あなたはサッカーにおける戦術をどの程度理解していますか	
8	おおよそのプレーの善し悪しが分かりますか？	
9	選手のプレーの善し悪しを知りたい	0.837
10	選手のプレーを見る事が観戦の上で最も重要だ	
11	選手のプレーに詳しくになりたい	
12	好きな選手を見るために生で観戦したい	0.788
13	個人的に注目している選手がいる	
14	特定の選手の動向は常に意識している	
15	観戦する試合では良い成績を残して欲しい	不可
16	結果が伴わなければ観戦したくない	
17	選手の出す成果を常に期待している	
18	休日に1人でいたくはないと思う	0.749
19	仲間と頻繁に連絡を取り合いたいと考えている	
20	特定の人ではなく、より多くの人と交流したい	
21	新商品という言葉に弱い	0.651
22	流行には敏感だと思う	
23	話題性のあるものは必ず知っておきたい	

24	人の喜ぶ姿が好きだ	0.717
25	嬉しい出来事は人に話したい	
26	感動の場面は大勢で分かち合いたい	
27	家族との時間を大切にしたい	0.889
28	なるべく家族と連絡を密にするよう心がけている	
29	家族での外出、旅行が好きだ	
30	わいわい騒いで楽しむことが好きだ	0.846
31	楽しく盛り上がりたい	
32	何事も楽しみながら行いたい	

4). 重回帰分析結果

上記の因子分析、クロンバック α 係数測定によって妥当性が確認された「プレーへの興味」、「期待の一致」（質問 15）、「選手へのロイヤリティ」、「社会的交流意欲」、「ミーハー意欲」、「感動の共有欲求」、「家族との交流意欲」、「満足度欲求」因子を説明変数、「観戦意向」を被説明変数として、重回帰分析を行った。ここでは「全体」「観戦能力上位」、「観戦能力下位」の順に分析を行っている。尚、観戦能力の上位、下位については観戦能力の質問項目 6～8 の上位 25 人を区切りに行った。

図表 15 観戦意向と「プレーへの興味」、「選手へのロイヤリティ」、「期待の一致」、「社会的交流意欲」、「ミーハー意欲」、「感動の共有欲求」、「家族との交流意欲」、「満足度欲求」との相関についての重回帰分析結果（全体）

	B	t 値	有意確率
(定数)	5.3686	2.337	0.0236
プレーへの興味	0.2558	1.409	0.1652
選手へのロイヤリティ	0.1654	1.369	0.1772
期待の一致	1.6397	5.826	4.33E-07***
社会的交流意欲	0.1234	0.708	0.4825
ミーハー意欲	-0.0883	-0.641	0.5242
感動の共有欲求	-0.0311	-0.137	0.8918
家族との交流意欲	-0.3558	-3.213	0.0023**
満足度欲求	0.0164	0.111	0.9119

N=58 R2 乗=0.6291 修正 R2 乗=0.5685

注) 有意確率 ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意

図表 16 観戦意向と「プレーへの興味」、「選手へのロイヤリティ」、「期待の一致」、「社会的交流意欲」、「ミーハー意欲」、「感動の共有欲求」、「家族との交流意欲」、「満足度欲求」との相関についての重回帰分析結果（観戦能力上位）

	B	t 値	有意確率
(定数)	7.1960	3.255	0.004
プレーへの興味	0.1501	0.644	0.5264
選手へのロイヤリティ	0.3482	2.536	0.0188**
期待の一致	1.7270	4.399	0.0002***
社会的交流意欲	-0.5178	-2.182	0.0401**
ミーハー意欲	-0.0025	-0.013	0.9897
感動の共有欲求	-0.5069	-1.716	0.1003
家族との交流意欲	0.0887	0.640	0.5285
満足度欲求	-0.0036	-0.027	0.979048

N=58 R2 乗=0.7595 修正 R2 乗=0.6721

注) 有意確率 ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意

図表 17 観戦意向と「プレーへの興味」、「選手へのロイヤリティ」、「期待の一致」、「社会的交流意欲」、「ミーハー意欲」、「感動の共有欲求」、「家族との交流意欲」、「満足度欲求」との相関についての重回帰分析結果（観戦能力下位）

	B	t 値	有意確率
(定数)	5.6032	1.25	0.2271
プレーへの興味	0.4327	1.669	0.1124
選手へのロイヤリティ	-0.0700	-0.361	0.7223
期待の一致	1.3213	3.898	0.0011***
社会的交流意欲	0.0407	0.136	0.8930
ミーハー意欲	-0.1579	-0.916	0.3718
感動の共有欲求	-0.0948	-0.332	0.7434
家族との交流意欲	-0.5797	-2.845	0.0108**
満足度欲求	0.4115	1.438	0.1677

N=58 R2 乗=0.7109 修正 R2 乗=0.5824

注) 有意確率 ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意

H1-1： プレーへの興味と観戦意向には正の相関が存在する

($B = 0.1501$, $p = 0.5264$)

Bは正であるが、10%水準で有意な相関が見られなかったため、この仮説は棄却された。

H1-2： 観戦能力の高い人の方が低い人より、プレーへの興味と観戦意向との相関が強い
観戦能力上位、下位共にBは正であるが、10%水準で有意な相関が見られず、t値において
観戦能力の高い人は0.644、低い人は1.699であるため、この仮説は棄却された。

(観戦能力上位： $B = 0.1501$, $p = 0.5264$ 、観戦能力下位： $B = 0.4327$, $p = 0.1124$)

H2： 選手へのロイヤリティと観戦意向には正の相関が存在する

Bは正であるが、10%水準で有意な相関が見られなかったため、棄却された。

($B = 0.1654$, $p = 0.1772$)

H3-1： 代表戦での期待の一致と観戦意向には正の相関が存在する

($B = 1.6397$, $p = 4.33E-07^{***}$)

Bは正であり、0.1%水準で有意な相関が見られたためこの仮説は採択された。

H3-2： 観戦能力の低い人の方が高い人より、代表戦での期待の一致と観戦意向との相関が強い

観戦能力上位、下位共にBが正であり、1%水準で有意な相関が見られたが、t値において
上位は4.399、下位は3.898であるため、棄却された。

(観戦能力上位： $B = 1.7270$, $p = 0.0002$ 、観戦能力下位： $B = 1.3213$, $p = 0.0011$)

H4： 社会的交流意欲と観戦意向には正の相関が存在する

Bは正であるが、10%水準で有意な相関が見られなかったため、棄却された。

($B = 0.1234$, $p = 0.4825$)

H5-1： ミーハー意欲と観戦意向には正の相関が存在する

($B = -0.0883$, $p = 0.5242$)

Bが負であり、10%水準で有意な相関も見られなかったため、この仮説は棄却された。

H5-2： 観戦能力の低い人の法が高い人より、ミーハー意欲と観戦意向との相関が強い

Bは負であり、10%水準で有意な相関が見られず、t値において上位は-0.013、下位は-0.916
であるため、棄却された。

(観戦能力上位： $B = -0.0025$, $p = 0.9898$ 、観戦能力下位： $B = -0.1579$, $p = 0.3718$)

H6： 感動の共有欲求と観戦意向には正の相関が存在する

Bは負であり、10%水準で有意な相関が見られなかったため、棄却された。

($B = -0.0311$, $p = 0.8918$)

H7：家族との交流意欲と観戦意向には正の相関がある
 Bが負であり、5%水準で有意な相関が見られたため、棄却された。
 (B = -0.3558 , p = 0.0023)

H8：代表戦での満足度欲求と観戦意向には正の相関がある
 Bは正であるが、10%水準で有意な相関が見られなかったため、棄却された。
 (B = 0.0164 , p = 0.9119)

6.2 仮説検定結果まとめ

改めて今回設定した仮説の検定結果をまとめると、以下のようになった。

図表 18 仮説検定結果のまとめ図

仮説と検定結果
H1-1：プレーへの興味と観戦意向には正の相関が存在する→ 棄却 H1-2：観戦能力の高い人の方が低い人より、プレーへの興味と観戦意向との相関がより存在する→ 棄却
H2：選手へのロイヤリティと観戦意向には正の相関が存在する→ 棄却
H3-1：代表戦での期待の一致と観戦意向には正の相関が存在する→ 採択 H3-2：観戦能力の低い人の方が高い人より、代表戦での期待の一致と観戦意向との相関がより存在する→ 棄却
H4：社会的交流意欲と観戦意向には正の相関が存在する→ 棄却
H5-1：ミーハー意欲と観戦意向には正の相関が存在する→ 棄却 H5-2：観戦能力の低い人の方が高い人より、ミーハー意欲と観戦意向との相関がより存在する→ 棄却
H6：感動の共有欲求と観戦意向には正の相関が存在する→ 棄却
H7：家族との交流意欲と観戦意向には正の相関がある→ 棄却
H8：代表戦での満足度欲求と観戦意向には正の相関がある→ 棄却

図表 19 推定結果まとめ

	全体		観戦能力高		観戦能力低	
	B	t 値	B	t 値	B	t 値
(定数)	5.3686	2.337	7.1960	3.2550	5.6032	1.2500
プレーへの興味	0.2558	1.409	0.1501	0.644	0.4327	1.669
選手へのロイヤリティ	0.1654	1.369	0.3482	2.536	-0.07	-0.361
期待の一致	1.6397	5.826	1.727	4.399	1.3213	3.898
社会的交流意欲	0.1234	0.708	-0.5178	-2.182	0.0407	0.136
ミーハー意欲	-0.0883	-0.641	-0.0025	-0.013	-0.1579	-0.916
感動の共有欲求	-0.0311	-0.137	-0.5069	-1.716	-0.0948	-0.332
家族との交流意欲	-0.3558	-3.213	0.0887	0.64	-0.5797	-2.845
満足度欲求	0.0164	0.111	-0.0036	-0.027	0.4115	1.438

上記は全体及び観戦能力の高低によってB値とt値を記載した図である。

仮説にはしなかったが観戦能力の高低における各数値を比較して見ると有意になったものもある。「選手へのロイヤリティ」、「家族との交流意欲」では観戦能力の高い人間の方が低い人よりも強い相関が見られ、「社会的交流意欲」、「満足度欲求」では観戦能力の低い人間の方が高い人よりも強い相関が見られた。感動の共有欲求に関しては標準化係数が負であったため比較の対象とはならなかった。

まず観戦能力の低い人間において「社会的交流意欲」と「満足度欲求」が強かったのは根本的にスポーツ観戦を通じて、試合などの内容はひとまず、人と交流したい、楽しみたいのではないかという推測通りの結果となった。観戦能力の高い人間は分析的且つ専門的に見ることを好むと考えられるため、結果としては妥当である。

観戦能力の高い人間において「選手へのロイヤリティ」が強かった理由としてはやはり観戦能力が高いためプレーの質なども理解しやすく、より好きな選手が生まれやすく、その選手を見たいがために観戦を行う機会があるということが推測される。「家族との交流意欲」としては観戦能力の高い人間の家族がよりそのスポーツに対して熱心である可能性が高いことが予想されるため、必然的に家族全体でテレビ観戦やスタジアム観戦を行う可能性が高いのではないかと考えられる。

7. 考察

7.1 観戦意向に関する仮説の考察

ここでは仮説の H1~H8 についての考察を行う。

H1-1：プレーへの興味と観戦意向には正の相関が存在する

→棄却

H1-2：観戦能力の高い人の方が低い人より、プレーへの興味と観戦意向との相関が強い

→棄却

観戦意向の仮説を作成した際の自分の考えとは対照的に、結果としてこの仮説は棄却となった。理由としては以下の2点が考えられる。1点目にそもそも観戦能力の低い人間はスポーツそのものを知ることでもっとそのスポーツを楽しみたいと考えるのではないかと推測される。実際に実態調査においても観戦能力の低いスポーツを見た後にまた観戦をした理由として、そのスポーツに詳しくなれたからと回答していた人が数名おり、その経緯からもこの仮説が棄却された原因が予測される。

次に2点目として、観戦能力上位の人はもはやそのスポーツをある程度知り尽くしていることが予想されるため、そもそもプレーへの興味がそこまで存在しないという可能性がある。筆者自身も選手のプレーへの興味を見て、それらを自らに吸収しようとするより、ただ単純に選手のプレーを見て楽しみたいと考えている。そういった経緯もこの仮説が棄却された要因の一つになっていると推測される。アンケート自体も問い方があまり芳しくなく、特に観戦能力上位に向けての質問としては「プレーの善し悪しを知りたい」など、あまり適さない質問もあった。これらも理由の一つと考えられる。

H2：選手へのロイヤリティと観戦意向には正の相関が存在する

→棄却

全体として選手へのロイヤリティと観戦意向には相関が見られなかった。理由として考えられるのは根本的に選手が好きだからそのスポーツを見るという人が多くはないのではないかとということである。スポーツ界において選手個人がアイドルのような人気を得ることは難しく、また特定の選手を見たいがためにそのスポーツを見ると言うよりはそのスポーツを見る過程で数人の個人的に応援している選手を見たいと考える可能性の方が高いのではないかと推測される。またアンケート調査でサッカーを媒体として行ったことも理由として考えられる。サッカーは野球やテニスのように個人の技量が目立ちにくいスポーツである。それらも個人ではなくチームへのロイヤリティの方がより強いのではないかと考えられる。

観戦能力の高低に着目した場合、観戦能力の高い人間において観戦意向と選手へのロイ

ヤリティには相関が見られた。やはり観戦能力が高いため好きな選手などが生まれやすく、その選手を見たいがために観戦を行う機会がよりあるのではないかと推測される。

H3-1：代表戦での期待の一致と観戦意向には正の相関が存在する

→採択

H3-2：観戦能力の低い人の方が高い人より、代表戦での期待の一致と観戦意向との相関が強い

→棄却

観戦意向の仮説を作成した際の自分の考えとは対照的に、観戦能力の高い人の方が低い人よりも代表戦での期待の一致とのより強い相関が見られた。この結果が出た理由として、そのスポーツに詳しい人間の方が代表チームへの期待がよりいっそう強くなるのではないかと考えられる。例えばワールドカップやオリンピック等でも観戦能力の高い人の方が代表チームが勝ち上がり、より高いレベルでのプレーをして欲しいと考えるのではないかと思われる。面白いプレーや良い内容のパフォーマンスが見られれば、観戦能力の高い人間は満足すると考えていたが、常に代表チームの結果を重視していることが認識された。

H4：社会的交流意欲と観戦意向には正の相関が存在する

→棄却

この仮説は基本的には棄却されないと推測していたが、結果的に予想とは反するものとなった。理由としては2点あげられる。1点目に調査票においてパーソナルの質問項目に不備があったのではないかと考えられる。「特定の人ではなく、多くの人と関わりたい」などの質問ではなく、「人と関わることが好きだ」等の更に単純化した質問を用意する必要があったかも知れない。2点目に根本的にスポーツを観戦する上で人との交流は必要がないのではないかという推論である。スポーツそのものを楽しむことが人々にとっては重要で、人との交流は二の次で良いのではないかという推測である。ただし、先行研究を通してこの社会的交流意欲に関する仮説はほぼ採択されていたため、アンケートに不備があった、もしくはサッカーというスポーツを対象として調査したことに問題があったと考えるのが妥当と言えるだろう。

H5-1：ミーハー意欲と観戦意向には正の相関が存在する

→棄却

H5-2：観戦能力の低い人の方が高い人より、ミーハー意欲と観戦意向との相関が強い

→棄却

そもそも全体で重回帰分析を行った場合でも標準化係数がマイナスであった。この結果から言えることとして、人々は流行や話題性によって、スポーツを観戦する傾向があまりないのではないかということである。筆者は個人的にサッカーのワールドカップやWBC

を通していわゆる、にわかファンの存在の多くがミーハー意欲によって生じた現象だと考えていたが、観戦意向の仮説を作成した際の自分の考えとは対照的に実際はそうではなく何らかの他の要因が寄与している可能性が高い。この論文の中では選手へのロイヤリティや社会的交流意欲と観戦意向の相関が見られなかったため、別の何らかの要因が関連しているであろう。観戦能力が高いからこそ自らの興味があるスポーツに対してより敏感な傾向を持つことも想定されうる。

H6：感動の共有欲求と観戦意向には正の相関が存在する

→棄却

感動を人々と共有したいという欲求とスポーツの観戦意向には本研究において相関は見られなかった。この仮説が棄却された原因として最も初めに提起されるべきなのは、調査票を作成した際、パーソナリティの質問項目の一つとして、感動の共有欲求を訪ねてしまったことであろう。スポーツの感動の共有は普段の生活における感動の共有とはある種異質なものと考える必要がある。また根本的に感動を人々と共に味わいたいからスポーツを見たいという動機はそもそもあまり存在しないという推測が出来る。ただしこの仮説においても必ず採択されるであろうと予測していたものなので、調査票の項目などに何らかの過失があるのではないかと疑っている。

H7：家族との交流意欲と観戦意向には正の相関がある

→棄却

基本的には調査の対象が学生であったことが、この仮説が棄却された大きな原因となっていると考えられる。近年の学生が家族と蜜に連絡を取り合い、どこかへ出かけるといった動向はあまり見られないだろう。逆に友人との時間や自身の趣味に時間を注ぐことが多い意図推測される。例えば、この調査票が30歳～40歳の人々の中で行われた場合、採択された可能性がより高くなるのではないかと考えられる。また、家族でスポーツ観戦に行くという概念も一般化されていないのかもしれない。ディズニーランドなどのテーマパーク等への参加意向であればより一般的な事例であり、採択されていた可能性が高い。

H8：代表戦での満足度欲求と観戦意向には正の相関がある

→棄却

満足度欲求と観戦意向には相関が見られないという結果が得られた。この仮説が棄却されたことで、あくまで人々はスポーツ観戦においては盛り上がることを観戦の目的とはしていないと言えるだろう。スポーツはあくまでじっくりと分析的に見るものであるという認識がこの結果から得られる。しかし、先行研究や実態調査などからも純粋にスポーツ観戦を楽しみたい、人と一緒に盛り上がりたいという目的意識を持って代表戦の観戦に臨むというケースが多く見られた。この仮説が棄却された理由としてはサッカーを調査媒体と

したこと、調査の対象が学生であったこと、調査票におけるワーディングなど様々な要因が考えられるため、今後の更なる考察を行いたい。

7.2 考察のまとめ

上記の仮説のほとんど全てが棄却であったが、先行研究等では全て採択されていたため、これらが棄却された要因として被説明変数となる項目の数値が平均してかなり高かったことが大きな要因の一つではないかと考えられる。サッカーを本研究では調査票で回答対象としたが、サッカーは一般的に人気が高く、多くの人間が観戦したいという回答を行ってしまったため、他のスポーツであれば仮説検定結果が大きく変わっていた可能性も大いに考えられる。本調査ではサッカーサークルに参加している人からのアンケートが多かったため、サッカーサークルに所属している人以外の33人でダミー変数を作成し、それらで分析を行ったが結果は変わらず、有意にはならなかった。

尚、それぞれの質問項目で単回帰分析を行った際、プレーへの興味×観戦能力の因子を作成し、説明変数として分析を行った際も結果は有意にはならなかったことを追記しておきたい。

8. 最後に

8.1 実務への展望

今回行った研究の中で、スポーツにおける観戦能力の高低によってどれだけ観戦の動機に差が生じるのかを研究したが、筆者が予想をしていたものとは真逆の結果が得られた。プレーへの興味、期待の一致などは観戦能力の高い低いと真逆の結果が得られた。意外にも観戦能力の低い人間はプレーへの興味を持っており、反対に観戦能力の高い人間は期待の一致、いわゆる代表チームの結果に対してよりシビアな目を送っていることが認識できる。このことから人々を代表戦へと観戦に呼び込むにはまずは結果を出すこと、詳しいプレーの解説が重要とされることが言えるのではないか。また調査票内での実態調査の項目である、インターネットにおける Facebook、twitter 利用の項目についても総じて高い平均値が見られたため、代表戦の主催者側はこれらの媒体を意識したプロモーションが更に必要であろう。Facebook では各スポーツの代表戦の応援ページ、twitter では期待の一致、プレーへの興味がそそられるような文章での発信が望ましいであろう。

8.2 今後の展望

今回の研究では観戦意向と他の 8 つの要素との相関を調べたが、課題は山積みである。まず仮説が全て棄却されたという結果になってしまった原因を探らなければならない。まずはサッカーを今回取り上げたので他のスポーツでは結果が変わってくるのか、調査票のワーディングは適切であったのか、サンプル数の増加、調査対象を変えるとどう変化するかなど、追加調査を行うことで結果は変わってくるかも知れない。

また今回は 8 つの要素についてであったが、まだ他にも様々な動機が存在していると思われる。今後は先行研究などを通して人々が観戦に至る他の要因も調査していくことが必要であろう。

8.3 最後に

本論文では代表戦スポーツイベントにおいて人々が有する様々な動機についての研究を行った。実態調査や先行研究を通じて「選手へのロイヤリティ」、「期待の一致」、「社会的交流意欲」、「ミーハー意欲」、「感動の共有欲求」、「家族との交流欲求」、「満足度欲求」といった 8 つの要素と観戦意向との相関を調べた。反省点としては一つの仮説も採択されなかった点である。基本的に先行研究では採択されていたにも関わらず、本調査で採択されなかったことは大いに調査自体を見直す必要がある。分析対象やサッカーだけでなく他のスポーツでの調査を行うことやアンケートのワーディングの修正の必要性は大いに見込まれる。今後は上記の結果を踏まえ、改善すべき要点を更に洗い出した上で更に深い研究を行っていきたいと考えている。

参考文献

- ・松井くるみ、原田宗彦 (2011) 「プロスポーツ観戦者の将来ファン行動に関する研究」 『スポーツ科学研究』, 8, 12-34, 2011 年
- ・丸尾和廣 (1996) 「みるスポーツ」における観戦者の分類視座 『日本体育学会大会号 (47)』, 384, 1996-08-25
- ・原田宗彦 (2009) 「スポーツ観戦における感情場面」
- ・Daniel L. Wann, Frederick G. Grieve, Ryan K. Zapalac, and Dale G. Pease (2008) “Motivational Profiles of Sport Fans of different Sports” ’ Sport Marketing Quarterly’ 2008, 17, 6-19, West Virginia University
- ・Neale Larry, Funk, Daniel Carl (2005) “Fan Motivation And Loyalty” ’ Broadening the Boundaries ’, 5-7 December 2005
- ・オリンピック委員会 (<http://www.joc.or.jp/>)
- ・WBC (<http://web.worldbaseballclassic.com/index.jsp>)
- ・FIFA (<http://www.fifa.com/worldcup/index.html>)
- ・日経 BP (<http://www.nikkeibp.co.jp/>)
- ・株式会社インテージ (<http://www.intage.co.jp/>)

付属資料

1) 調査票

調査票

「代表戦スポーツイベント」に関する調査票

アンケートご協力をお願い

この度、濱岡豊研究会における「代表戦スポーツイベント」に関する論文の執筆のため、アンケート調査を実施することとなりました。本調査における集計結果は論文作成の分析にのみに使用し、その他の目的で使用することはありません。また個人を特定することはありません。

お手数ですがご協力の程、宜しく願いいたします。

慶應義塾大学商学部4年 濱岡豊研究会9期 松田祐太

サッカーの代表戦とは…親善試合、ワールドカップ、オリンピックなど、日本代表が行うサッカーの試合です。

A、以下の質問についてあてはまるものにそれぞれ○をつけてください。

0、年齢（0男、1女）

1、年齢（ ）歳

2、職業（1、学生 2、社会人 3、フリーター 4、その他）

B、あなたについてお聞きします。あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。

3、サッカーの日本代表戦に対して関心がある

（5非常にそう思う 4そう思う 3どちらとも言えない 2そう思わない 1全くそう思わない）

4、サッカーの日本代表戦をよく観戦する（テレビやスタジアム等、形式は問わない）

（5非常にそう思う 4そう思う 3どちらとも言えない 2そう思わない 1全くそう思わない）

5、今後もサッカーの日本代表戦を観戦したいと思う

（5非常にそう思う 4そう思う 3どちらとも言えない 2そう思わない 1全くそう思わない）

6、あなたはサッカーのルールをどの程度理解していますか。

（5非常に良く分かる 4よく分かる 3どちらでもない 2あまり分からない 1分からない）

7、あなたはサッカーにおける戦術をどの程度理解していますか。

(5非常に良く分かる 4よく分かる 3どちらでもない 2あまり分からない 1分からない)

8、おおよそのプレーの善し悪しが分かりますか？

(5非常に良く分かる 4よく分かる 3どちらでもない 2あまり分からない 1分からない)

上記に記載したスポーツを観戦する場面を想定の下、以下の質問にお答え下さい。尚、観戦の形式(テレビ、スタジアム等)は問いません。

	非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全くそう思わない
9、選手のプレーの善し悪しを知りたい	5	4	3	2	1
10、選手のプレーを見る事が観戦の上で最も重要だ	5	4	3	2	1
11、選手のプレーに詳しくなりたい	5	4	3	2	1
12、好きな選手を見るために生で観戦したい	5	4	3	2	1
13、個人的に注目している選手がいる	5	4	3	2	1
14、特定の選手の動向は常に意識している	5	4	3	2	1
15、観戦する試合では良い成績を残して欲しい	5	4	3	2	1
16、結果が伴わなければ観戦したくない	5	4	3	2	1
17、選手の出す成果を常に期待している	5	4	3	2	1

C、あなたのパーソナリティについてお聞きします。あてはまるものにそれぞれ○をつけて下さい。

	非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全くそう思わない
18、休日に1人でいたくはないと思う	5	4	3	2	1
19、仲間と頻りに連絡を取り合いたいと考えている	5	4	3	2	1
20、特定の人ではなく、より多くの人と交流したい	5	4	3	2	1
21、新商品という言葉に弱い	5	4	3	2	1
22、流行には敏感だと思う	5	4	3	2	1
23、話題性のあるものは必ず知っておきたい	5	4	3	2	1
24、人の喜ぶ姿が好きだ	5	4	3	2	1
25、嬉しい出来事は人に話したい	5	4	3	2	1
26、感動の場面は大勢で分かち合いたい	5	4	3	2	1
27、家族との時間を大切にしたい	5	4	3	2	1
28、なるべく家族と連絡を密にするよう心がけている	5	4	3	2	1
29、家族での外出、旅行が好きだ	5	4	3	2	1
30、わいわい騒いで楽しむことが好きだ	5	4	3	2	1
31、楽しく盛り上がりたいたい	5	4	3	2	1
32、何事も楽しみながら行いたい	5	4	3	2	1

D、あなたについてお聞きします。あてはまるものにそれぞれ○をつけて下さい。

33、人と交流する上で facebook, mixy などの SNS サイトをどのくらいの頻度で利用しますか？

(5、毎日 4、2, 3日に一度 3、一週間に一度 2半月に一度 1一ヶ月に一度以下、及び登録せず)

34、人と交流する上で twitter をどのくらいの頻度で利用しますか？

(5、毎日 4、2, 3日に一度 3、一週間に一度 2半月に一度 1一ヶ月に一度以下、及び登録せず)

アンケートは以上です。ありがとうございました。

2) 単純集計結果

質問	質問項目	平均	分散
3	サッカーの日本代表戦に対して関心がある	3.8793	1.2658
4	サッカーの日本代表戦をよく観戦する	3.6896	1.3756
5	今後もサッカーの日本代表戦を観戦したいと思う	3.8965	1.1470
6	あなたはサッカーのルールをどの程度理解していますか	3.7068	1.3687
7	あなたはサッカーにおける戦術をどの程度理解していますか	2.8793	1.406231095
8	おおよそのプレーの善し悪しが分かりますか？	3.1034	1.3575
9	選手のプレーの善し悪しを知りたい	3.4655	1.3408
10	選手のプレーを見る事が観戦の上で最も重要だ	3.5344	1.0952
11	選手のプレーに詳しくなりたい	3.4482	1.7253
12	好きな選手を見るために生で観戦したい	3.1896	1.7704
13	個人的に注目している選手がいる	3.2586	1.5986
14	特定の選手の動向は常に意識している	2.8620	2.0508
15	観戦する試合では良い成績を残して欲しい	4.0862	1.4836
16	結果が伴わなければ観戦したくない	3	1.5087
17	選手の出す成果を常に期待している	3.3965	1.2259
18	休日に1人でいたくはないと思う	3	1.2280
19	仲間と頻繁に連絡を取り合いたいと考えている	3.0689	0.9425
20	特定の人ではなく、より多くの人と交流したい	3.3103	1.1300
21	新商品という言葉に弱い	3.3620	1.2876
22	流行には敏感だと思う	2.9655	0.7356
23	話題性のあるものは必ず知っておきたい	3.2586	0.8968
24	人の喜ぶ姿が好きだ	4.2413	0.5372
25	嬉しい出来事は人に話したい	4.0689	0.8372
26	感動の場面は大勢で分かち合いたい	3.8103	0.7177
27	家族との時間を大切にしたい	3.9827	0.9295
28	なるべく家族と連絡を密にするよう心がけている	3.2931	1.1932
29	家族での外出、旅行が好きだ	3.3448	1.5632
30	わいわい騒いで楽しむことが好きだ	4.0172	0.9646
31	楽しく盛り上がりたい	4.1896	0.7528
32	何事も楽しみながら行いたい	4.5172	0.3593
33	人と交流する上で facebook, mixy などの SNS サイトをどのくらいの頻度	3.9137	1.9047

	で利用しますか		
34	人と交流する上で twitter をどのくらいの頻度で利用しますか	3.9655	2.6303